

伯林ダーレム植物園ノ日本式凉亭トふぢノ花(Wisteria floribunda DC.)

## 樂學博士

翌日ノ事デアッ

タ

(藤田氏通信ノ

刈由 米 達

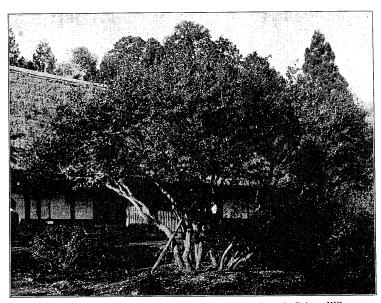
我國

二茶樹

ノ傳ハッタノハ西暦七八○年頃傳

夫

居 Oh! Heimats 不思 植物 此 其處デ僕ハ タラ 押頂イテ斷然「キッ 近頃メッ 寫眞ヲ買 イト言ッタ調子 、ウナ奴原 議ナ筈 テ居 門 二月廿六日即チ異 イ様ニ ジノ無粹. キリ上達 ィ 奴 Ŀ Æ ヲ ガ ナ門衞 笑ッ 求 不 サ ナ . " ケ タ 思 おれノ現在 ッ デイ お 力 テ 力 テ 前達 茶目氣分ヲ發 ラ シ バ ケ ガ ・キナリヤ ト言ヒ タ(?) 國 ツ 奴變ナ様子ヲ 不都合ナ譯 ッ 力 ヲ Æ テ 於テハ 様ナ 異國 一ノ心境 見 ッ ヲ 敷カラ 流暢 テ シ ナ テ ガ 居 顏 見 ラ ガ 揮 來 于 ナ Æ ヲ 時 3 音 棒 判 ナ セ シ テ ッ 自 テ 譋 テ イ 昭 テ N = キ 寫 早 お モ モ 力 ッ



ナル中村善吉氏前庭ノちゃ (Thea sinensis L.) ノ老樹

ッ

各

地

茶

栽

至 創

ヲ

イ

ヲ 江 藏 ズ 玉 ョリ約百年 長 ガ 年ノ 狹 Щ ヲ 建 記 ノ茶商山本徳潤 オ モ **入**二 念碑 Щ 製茶 傳 フ 間宇治茶ガ 茶 フ ガ ル為 其種子 年 y 地 高 ガ 前)武州 、法ヲ傳 有名 其 先ッ ラ 建 F サ 西 Ŧī. テ デ ラ以 筑前 同 曆 株六 寸 二 丈餘 ァ = 氏 アル 獎 村 ナ 當  $\mathcal{F}$ 山中河 內 n 3 テ 武 於 n ŀ 個 デ 全國 脊振 九見 始 謀 タ 藏 テ ノ人村野 幹周 其後字 力 IJ 處 重闢茶場碑(天保三年建之) リ狭 現在同村中村善吉氏ノ邸 7 ラデ リデ 殘 Ŧī. Щ ダ 九 <u>+</u> Щ 個 ガ 存 昨 擅 治 7 處 植 、寸六分ア ア 盛 僧 シ 麓 株相集リ其幹 政 ヲ 來 " n Z. 適地 **≥**⁄ 除 Ŧ 後 茶場ヲ再 ガ 吉川溫恭 ク Щ タ 此三氏 ガ ノ他斯 宋 y 城 毛 茶場 ノ叢 珍ラ 文政 至 H 一リ弟子 y デ 業振 年 ヲ ア 里 最 功 間 シ

ちょろぎュ就

イ

テ誰

v

Æ

jν

事ハ先ヅ第

其名前ト形トノ珍奇ナ事デアル、

カラ約三百年、

西洋特

=

佛國ニ 感ズ

渡

ッ

テカラ三十年、

巴里

ノ

市場

ハ

愚

心カ歐洲に

各國

一ノ物好・

キナ園藝家達

)ノ食卓 日

ヲ

賑 テ

支那

デ

約七百年、

本二

來

洋

珍

草

5

j.

ろ

ŧ.

狹山ノ製茶法 仲 軒 ノデ 宇治ハ風 氏 ア ヲ 先 達 妹 ハ ŀ 宇治 グヲ重ン シ 同 ŀ 志 ジ 多少趣 四 靜岡 人 同 ラ異 ハ專ラ米國輸 地 ヲ = 訪 シ所謂 フ 歹 時 出 狭山式ト = 向 花 ŀ シ ガ 滿開 テ形狀色澤 シ テ知ラレ芳香高ク永ク鮮綠色 デ ア ッ ラ主ト タ 上揭 シ現在ハ殆ド , 寫眞 **ハ** ソ ヲ保ツヲ特長 總テノ操作 , 時 木 村 康 ヲ 器 氏 ŀ 械 シ テ尊 撮 3 影 リ大 **≥**⁄ タ

## 東洋ノ珍草ちょろぎ

生産する

行

ッ

テ居

N

獨リ狹山

茶

今日ニ

至

ルモ

多

ク人手ヲ用ヰ

ルガ爲メ生産力及ビ價格

= 於

シテ他

押

サ

ノハ惜シムベキコトデアル

江 口 庸さ 雄り

學

士:

先ヅちょろぎト呼ブノハ シ タちょろぎノ名稱 ŀ ハ何デアラウカ、はト一般性狀トノ概 ノ概略ヲ書 イテ見ョ ゥ 屬二 ス v ラ V 澤

ノ特徴モ擧ゲラレテアルケレ 其 ノ 貯藏 器官タ jν 肥大セル地下莖ノ ドモ其ノ開花中ノ狀態 . 開花中ノ狀態モ感ジモ紫蘇ニ能ク似テ居ル、ソシテ一植物學上デハ脣形科中ノいぬごま(ちょろぎだまし) 事ヲ指シテ居 )V 應名稱ニ就イテ書イテ見ルト漢名デ テ一般ニ ちょろぎト 蠶

云フノハ (本草拾遺) 食物本草) 本草綱目) 割 ハ澤山ノ異名ガアルケレド其内一般的ニ使用セラルヽノハ主トシテ草石蠶ト甘露子トノニツデアル 蟲石蠶 蠶石 地 蠶 (日用· (授時通考) (證類本草) (本草) 土踊 地果、 甘露兒 (餘冬錄) 玉環菜 實塔菜、 (救荒本草) 地瓜兒 螺鰤菜、 (三才圖會) 湲焦(泉州府志) 露水果 同上)地環(二如亭群芳譜) (中華民國東南大學吳耕民氏講 石蠶 (八閩通志) 甘〔原譜誤作環ト〕 ŀ ・稱スル 甘露子